

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 31 日現在

機関番号：33202

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2016

課題番号：15K13099

研究課題名(和文) 保育ソーシャルワーカー導入に向けた養成支援システム構築に関する実証研究

研究課題名(英文) Empirical Study on Construction of Training Support System for Introducing Childcare Social Workers

研究代表者

村上 満 (MURAKAMI, MITSURU)

富山国際大学・子ども育成学部・教授(移行)

研究者番号：10555197

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、2年間にわたり、わが国における保育ソーシャルワーカーの導入に焦点を当て、より高度な専門職の育成をも含めた一連の養成支援システム(富山モデル)の構築を目的に研究を行った。

まず、1年目は、保育現場等におけるソーシャルワーカーの必要性に関する文献調査と実態調査を行い、保育ソーシャルワーカーとして備えるべき効果的な援助的要素を抽出し、これをもとに養成カリキュラムの基礎資料を作成した。2年目は、基礎資料をもとに、養成カリキュラムの内容と指定履修科目の確定ならびに各科目のシラバス作成までを含めた一連の保育ソーシャルワーク教育課程の構築と設置の提案を行った。

研究成果の概要(英文)： This research focused on the introduction of childcare social workers in Japan over the course of two years. It aims for constructing a training support systems (We call "Toyama model"), including training systems for higher level professionals.

In the first year of the research, we conducted the literature review and fact-finding survey on the necessity of social workers in nursery schools etc. Based on the survey, we found effective and supportive elements for becoming nursing social workers, and then based on the survey, we made the fundamental documents for the training system. In the second year, with the fundamental documents, we proposed the establishment of a series of the curriculum for training nursing social workers. The proposal includes the contents of the training curriculum and confirmation of designated course subjects and the preparation of syllabus for each subject.

研究分野：ソーシャルワーク

 キーワード： 保育ソーシャルワーカー 効果的援助要素 養成カリキュラム 養成支援システム ケアマネジメント
富山モデル構築 教育課程

1. 研究開始当初の背景

(1) 学術的背景にみる本研究の意義

2008(平成20)年3月「保育所保育指針」が改定され、保育所の多様化する子育て問題に対応していくため、その中心的役割を担う保育所保育士に、保護者への相談援助、家庭や地域社会との密な連携、虐待予防、権利擁護機能も含めた児童福祉施設における社会福祉専門職(ソーシャルワーカー)としての役割の強化が明示されるようになり、ソーシャルワークの必要性が年々高まっている点に、本研究の着想と行うべき意義があると言える。

しかしながら「保育ソーシャルワーク」は、ソーシャルワーク分野において、まだ開拓されていない未知の領域であるため、研究者が極めて少ないのが現状である。国内の研究動向についても、国立情報学研究所が運営する学術情報データベース上における「保育ソーシャルワーク」関連論文は、2000年からわずか34件であった。海外に至っては皆無であり、学術的背景にも極めて乏しい領域である。

本研究自身も、富山県においてスクールカウンセラーを10年以上にわたり務め、平成20年度からは、全国の動向に合わせ、県内初のスクールソーシャルワーカーの養成を行ってきた中で、明らかにスクールカウンセリング業務だけでは対応しきれない複雑かつ多問題ケースが、特に低学年に増加している現状を目の当たりにしてきた。

(2) 本研究の特色

本研究の特色は、まず就学時前の段階に焦点を当てていくことが重要だと位置づけたこと、次に早期介入・予防するべきケースをはじめ、保育所等との連携が欠かせないケースや複数の社会資源を必要とし、多面的な視野からの対応を求められるケースが、今後さらに増加すると予想されることから、保育現場への保育ソーシャルワーカーの本格的な導入と配置、人材育成までも含めた一連のシステム構築を試みるための実践かつ実証的研究を行ったこと、の2点であると言える。

2. 研究の目的

本研究は、わが国で初めて、就学時前の保育現場等への“(仮称)保育ソーシャルワーカーの導入検討”に焦点を当てるものであり、人材育成をも含めた一連のシステム構築(富山モデル)をその最終的な目的としている。

具体的には、「子育てに関するアンケート調査」を富山県内の保育士会の協力のもとに実施し、実態を把握すること、実態調査から保育ソーシャルワーカーが備えるべき効果的援助要素を抽出すること、援助要素をもとに「保育ソーシャルワーカー養成カリキュラム」の検討と、その教材を開発すること、効果的な配置方法や全国の社会福祉士養成校での人材育成の普及に向けた検討を行うこと、以上の4点について明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 研究初年度(平成27年度)

保育現場等におけるソーシャルワーカーの配置の必要性に関する文献調査と学会の動向把握、実態調査、実態調査等からの保育ソーシャルワーカーが備えるべき効果的な援助要素の抽出の検討、援助要素をもとに、保育ソーシャルワーカー養成カリキュラムの検討、を行った。

(2) 研究2年目(最終年度:平成28年度)

保育ソーシャルワーカーの「養成カリキュラム」と「シラバス」の試案作成、教材開発に向けた具体的作業の実施、人材育成をも含めた一連の養成支援システム(富山モデル)の構築とその普及策の検討、を行った。

4. 研究成果

(1) 研究初年度(平成27年度)

国内外の保育ソーシャルワーク関連の論文のすべてのとりまとめ作業を行った。具体的には、「保育」「ソーシャルワーク」の2つのキーワードを含むすべての論文のabstractをデータベース化し、レビューを作成した。また、富山県高岡市保育士会研究部会と協力し、市内すべての保育所に対して保護者へのアンケート調査を実施し、子どもや保護者を取り巻く実態把握とソーシャルサポートの必要性について研究を行った。その成果は、県の保育士会総会で発表(2016年5月28日)された。

実態調査から保育場面におけるケアマネジメント総合力として、保育ソーシャルワーカーが備えるべき効果的な援助要素には、a)「他の専門職との連携・協働力」、b)「ネットワーク力」、c)「関係機関・サービス活用力」、d)「社会資源の発掘力」、e)「アウトリーチ力」、f)「コーディネーション力」の6つが明らかとなった。

教材開発の1つとして、日本保育ソーシャルワーク学会(事務局:九州ルーテル学院大学)と連携して、日本保育ソーシャルワーク学会編『保育ソーシャルワーク学研究叢書』の着想に入った。

「保育ソーシャルワーカー養成」のためのカリキュラム内容とシラバスの具体的な検討に入った。

(2) 研究2年目(最終年度:平成28年度)

保育ソーシャルワーカーの「養成カリキュラム」と「シラバス」の試案作成
保育ソーシャルワークを行うのは、保育者や社会福祉士といった単独の専門職ではなく、考案した教育課程において独自に養成される「保育ソーシャルワーカー」であるとした。

したがって、本教育課程は、一定の資格要件に加え、内容も保育や社会福祉士の分野だけでは賅いきれない、保育ソーシャルワーク特有の事項を中心としたカリキュラムとし、計6科目からなる指定履修科目とシラバスを作成した(図1)。

具体的には、a)子ども育成論、b)子ども育成専門演習、c)保育ソーシャルワーク論、d)保育ソーシャルワーク専門演習、e)保育ソーシャルワーカー実習指導、f)保育ソーシャルワーカー実習、である。

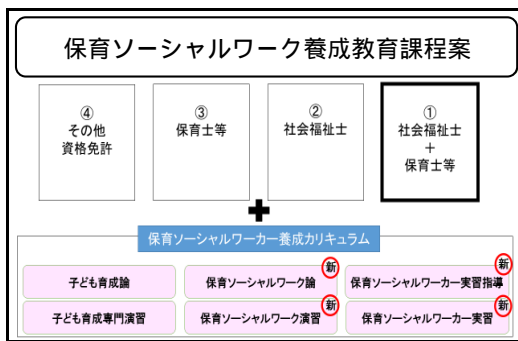


図1 保育ソーシャルワーク養成教育課程案

教材開発に向けた具体的作業の実施

日本保育ソーシャルワーク学会(事務局:九州ルーテル学院大学)から、日本保育ソーシャルワーク学会編『保育ソーシャルワーク学研究叢書(全3巻:晃洋書房)』を2018年10月に刊行することとなった。

具体的には、第2巻(内容・方法編)の第部「保育ソーシャルワークの内容と実践」の第4章「保育に関する情報提供」の部分を執筆担当し、現在第2次構成案を作成中である。

人材育成をも含めた一連の養成支援システム(富山モデル)の構築とその普及策の検討

保育士と社会福祉士(受験資格)の両資格を取得できる養成校はほとんどないのが現状である。しかし、本学の場合は、どちらの資格も取得可能な教育課程となっているため、ここに上述の独自の保育ソーシャルワーク養成課程なるカリキュラム(富山モデル)をさらに設けることが可能であるとともに、保育士と社会福祉士(受験資格)も持った、ハイブリッドで高度な専門職養成と人材育成を富山から発信できると考えた。

また、保育ソーシャルワーカーの実際の配置形態については、「保育施設配置型(配置型)」と「センター派遣型(巡回型)」の2つが考えられるとし、今後は、地域の実情に合わせながら展開されることが望ましいとした(図2)。特に、センター派遣型の配置先としては、これから全国展開が目指されている「子育て世代包括支援センター」を有力な候補先として提案した。

保育ソーシャルワーカー(保育SW)の設置形態		
	保育施設配置型(配置型)	センター*派遣型(巡回型)
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 子ども・保護者・保育者との関係が形成しやすい。 継続的な支援を展開しやすい。 緊急時の支援を即座に展開できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数で多くの保育施設に保育SWを普及できる。 保育SWの質を担保できる。 要望に応じて柔軟な派遣が可能。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 特定の施設への支援に限定されがちになってしまう。 施設間における保育SWの質を担保しづらい。 保育SWの普及に時間がかかってしまう(マンパワーの確保、人件費)。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども・保護者・保育者との関係が形成しづらい。 広く浅い支援になりがちになる。 複数の施設を担当する為、一人あたりにかかる負担が大きい。

図2 保育ソーシャルワーカーの配置形態について

本研究から、我が国においては、未就学児の子どもを取り巻く問題が、より多様化・複雑化しており、保育現場でソーシャルワークを担える高度な人材育成が早急に求められていると考えられた。

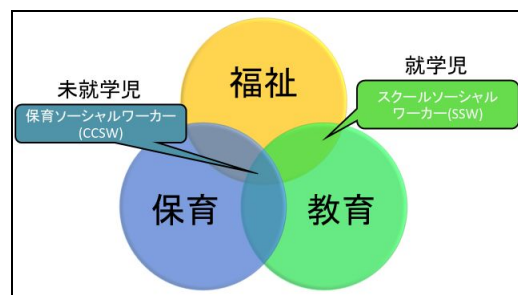


図3 保育ソーシャルワーカーの立ち位置イメージ

保育ソーシャルワーカーは、これからの教育、保育、福祉のハイブリッドを掲げる新たな専門職であると思われ(図3)、人材確保や予算面において、まだ課題はあるものの、富山モデルとして全国に普及できるように今後発信していきたいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

村上 満, 定通生徒の実態に即応したスクールソーシャルワークのあり方とは, 富山県高等学校教育研究会定時制通信制部会・富山県高等学校定時制通信制教育研究会研究紀要, 査読無, 第62巻, 2017, pp.13-26

彼谷 環, 村上 満, 政治的リテラシーを高める主権者教育の予備的考察, 富山国際大学子ども育成学部紀要, 査読有, 第8巻8号, 2017, pp.175-186

一ノ山隆司, 村上 満, 統合失調症患者の妄想に対応する看護師のコミュニケーション技法, 金城大学紀要, 査読有, 第17号, 2017, pp.127-140

〔学会発表〕(計3件)

村上 満, 開上滉己, 一ノ山隆司 他, 日

本「性とこころ」関連問題学会第9回学術研究大会『「保育ソーシャルワーカー」養成に向けた現状分析と今後の課題』, 2017年6月17日, 池袋(東京都)

境 美砂子, 一ノ山隆司, 村上 満 他, 日本「性とこころ」関連問題学会第9回学術研究大会「母親の育児不安に関する国内文献の動向」, 2017年6月17日, 池袋(東京都)

一ノ山隆司, 境 美砂子, 村上 満 他, 日本「性とこころ」関連問題学会第9回学術研究大会「性別違和に関連する文献タイトルの分析からみる国内文献の動向」, 2017年6月17日, 池袋(東京都)

〔図書〕(計3件)

丹羽 徹, 彼谷 環, 村上 満 他, 法律文化社, 子どもと法, 2016, 174 (164-165)

林 邦雄, 谷田貝 公貝, 村上 満 他, 一藝社, 新版社会福祉, 2017, 219(106-118)

伊藤良高, 永野典詞, 村上 満 他, 晃洋書房, 日本保育ソーシャルワーク学会編「保育ソーシャルワーク学研究叢書」, 2018.10(予定), 180

〔その他〕(計3件)

高岡市保育士会, 笑顔いっぱい 元気いっぱいの子どもたち 保護者と共に育ち合う子育て支援の輪, 「保育研究」富山県保育士会, 第47集, 2016, pp.51-100

村上 満, みんなが資源×みんなで支援の“生と活と”づくり, 第59回全国学校保健主事研究協議会富山大会報告書, 2016, pp.22-27

村上 満, 気になる生徒への支援に向けたSSWの効果的な活用とは, 富山県高等学校教育研究会養護部会研究収録, 第50巻, 2017, pp.35-37

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村上 満 (MURAKAMI, Mitsuru)
富山国際大学・子ども育成学部・教授
研究者番号: 10555197

(2) 研究分担者

彼谷 環 (KAYA, Tamaki)
富山国際大学・子ども育成学部・教授
研究者番号: 70288257

研究分担者

高口 理子 (TAKAGUCHI, Riko)
富山国際大学・子ども育成学部・講師
研究者番号: 60555192